

曝露されたのであり、特に我等が計画的に摘発したものでなく、彼等が計画的に林の逃走に對し大崎警察署に逮捕方を依頼した事から端なくも公有金費消の事實が發覚したのであつて、醜態部は自ら自己の首を締めたのであるから、誰を怨む事でも無いのである。従来より彼等醜態部の専横、横暴、非道徳行為に悩まされて居た我等組合員一同が、この警察の手によつて證明せられたる醜態部に爆發的に憤激したのは極めて當然であつて、何も、他人に依つて煽動せられる必要は毛頭無いのである。

然るに、彼等組合同盟一派は、醜態部を擁護し、會社に迫つて何等罪なき五名の役員を撤去せしめ、搦として自ら取るところが無いので、遂に我等は止むを得ず罷業を以つて之に對抗し、自己を防衛しなければならぬ事になつたのであるが、彼等は此の明瞭なる事實を全く無視し、たゞ、問題の発生に何等關係なき松岡氏の個人的愚罵に狂奔して居るのである。我等は松岡氏に對して、甚だお氣の毒に感ずる次第である。

## 何故彼等は松岡氏の中傷に狂奔するか

然らば、何故彼等組合同盟一派は、松岡駒吉氏に對して、斯くの如き行動に出るのであるか。抑々、品川製作所従業員の加藤君の組合委員長は、加藤十君であつて、同君は本問題發生以來、全く付き切りで、總幹部の警察より責ひ下げから、罷業團の切り崩しに至る迄一手に引き受けて居る。例の先般の醜態事件に際しても、同君は同日の朝の三時頃から工場に詰め掛け、死に物狂ひになつてやつて居たのである。此頃は毎日工場事務室に出動し、切り崩し用の出勤告文から各種ビラに至る迄、同君自ら筆を取つて書くと同時に、裏切り職工に對して激刺の演説を工場の中で毎日行つて居ると云ふ實状である。

人も知る如く、加藤十君は、先きの總選挙に第五區から立候補し、大點で落選したので、先日日本大衆黨本部の發表するところに依ると、次回の總選挙にもこゝから再び立候補するとの事である。同君は、既成政黨の院外團出身で別に労働者として體験を有せざるのみならず、労働組合運動よりも政治運動一殊に代議士たることに趣味とあこがれを感じて居る人である。同君の組合運動者として奮り奮しからざる成績は、既に定評のあるところであつて、最近は

の如く選挙の豫行的中傷運動を行つて居る間も無いのである。加藤君等の松岡氏に對するいわれなき嘘構の逆宣傳は、裁判に依つて明かになるであろうからこゝで一々駁論するのは止めるが、由來労働運動に從ふものに對する支那階級並に共產黨の逆宣傳は付きものであつて、必ず何かの中傷的噂を流布するものである。これを直ちに拵へて事實であるかの如く、然も無産階級の陣營内に在るものが、攻撃の材料に使用するが如きは實に言語道斷である。我等と雖も、加藤君を始め其他組合同盟派員日本大衆黨幹部に對する面白からざる風説を耳にして居る。しかし、かかる風説は要するに一箇の風説であつて、我等はかかる風説を利用して攻撃しようと思はぬし、又しても居らぬのである。只今回の醜態事件の如く、明瞭に事實として示された、確證のある問題に對しては、我等は階級的良心の命するところに従つて、之を暴露し、攻撃し、反省を促して居るのである。加藤君に對しても、かかる明瞭なる醜態部を何故擁護するかと云ふ眼前の不都合なるに行動に就いて批判し攻撃して居るのである。

然るに加藤君は、本問題の本質に觸れざるのみか、直接重要な關係を持たぬ松岡氏に對し、敵本主義的に、しかも事實無根の風説を立て、中傷攻撃するとは何事であるか。其心事たるや實に卑しむべく、哀れむべきものであつて、我等は労働組合運動より見て、はげしき義憤を感ぜざるを得ないのである。人を攻撃するならば事實を以つてせよ。この品川製作所の労働會議は、その源を質せば、加藤君等が、公金費消の醜態部を不當に擁護し、正しき組合員を排斥せしめたところから發して居るでは無いか。しかるに自己の行動を何等反省せず、如何に代議士病患者であるとは云へ、これを以つて選挙の豫行運動に利用するとは何事であるか！

### 全市民諸君！

本問題の真相はしばし我等の訴へたところであるが、労働問題に理解あると否にかかはらず、正解は一見明瞭であります。輿論は必ず正義に身がふるものと確信し、再び市民諸君の憂快心に訴ふる次第であります。

十月 日

日本労働總同盟東京鐵工組合  
大崎 第八 支部  
品川製作所 職 團